

## 15. 指しゃぶり除去に関する心理学的検討

○尾崎 正雄, 光本くみ子, 石井 香,  
本川 渉, 吉田 穰  
(福歯大・小児)

小児歯科臨床において、指しゃぶりと不正咬合の除去を主訴として来院する症例は珍しくない。特に学童期まで指しゃぶりを続けているような小児は、母親に対する欲求不満、家庭内での不安や緊張といった心理的背景が加わり、慢性的に習慣化している者が多い。従来よりこのような指しゃぶりの治療には、吸引している指への刺激物等の塗布、指サック、フェンスやトゲのついた舌側弧線や床装置などによる強制的な習癖除去が行われてきた。しかしながら、心理面での考慮なしに強制的な習癖除去をした場合、いったん習癖を中止したように見えても再発したり他の習癖や行動異常に移行する事がある。したがって習癖の除去には、心理学的および行動分析学的立場から習癖の除去を行わなくてはならない。そこで今回我々は、学童期まで指しゃぶりをしている小児とその両親に対し心理的分析を行い、心理学的（行動分析）立場から習癖の除去を試みたところ興味ある知見を得たので報告する。